

令和8年度厚木市まち・ひと・しごと創生総合戦略効果検証に対する総合計画審議会からの意見（意見提出用紙）

○令和8年度効果検証全体に対する評価について

- ・ 四つの基本目標の中で、子育て環境の整備をはじめ、十分に達成できている項目もあるが、防犯など引き続き課題となっている項目ははっきりしている。課題についてはさらなる具体的な取組が必要と考える。
- ・ KPI 平均はおおむね順調であるが、雇用創出数の低迷、出生数の毎年の低下など、最終目標との乖離に懸念がある。人手不足や物価高騰など構造的な課題に対しては、国や県との連携など、広域的な施策展開も視野に入れて、しっかりと取り組んでいただきたい。
- ・ 効果検証の結果は総じて順調、やや順調となっていることは評価できるが、市民の実感との乖離はないか、市民実感度の目標の設定が適切かどうかについて都度検討の対象にすることを期待したい。どの政策についても言えることだと思うが、市民の関心や意識を高めることがとても重要ではないか。その前提がないと上手く行政は回っていかない、人口の減少やインフラの老朽化、自然災害の発生など、今後難題が増えていくことが見込まれるなか、市民にしっかり響くように伝え、自分事として関心を持ってもらえるように、より一層注力していただきたい。
- ・ 施策評価では27施策中21施策がA・B評価、効果検証でも4つの基本目標のうち3つが「おおむね順調」であり、全体として着実に取組が推進されていると評価しております。特に、オンライン手続きの拡大をはじめとするデジタル化の進展と、各施策で指標のデータが着実に蓄積されている点は、今後の市政運営の大きな財産になると感じました。
 - 1 成果と実感の差の解消／指標の達成率は高くても市民実感度が低い施策が多く見られます。取組の成果をデータで見える化し、市民に伝わる形で発信していくことが重要だと思います。
 - 2 外的要因に左右されにくい実施方法・指標設計／悪天候や熱中症の危険による中止で達成率0%となり、評価が大きく下がった例があります。市が挙げられている予備日の設定や実施時期の見直しに加え、オンライン・動画等の代替手段もあわせて用意しておくことと良いと思います。
 - 3 データに基づく効果検証（EBPM）の深化／取組の指標（KPI）は順調でも、出生数など最終的な成果との乖離が見られます。せっかく蓄積されているデータですので、指標・事業費・実績や事業の利用者データを突き合わせ、「どの取組が成果に効いたか」の検証につなげていくことと良いと思います。
 - 4 属性別の傾向分析／市民実感度調査は、回答者の性別・年齢・お住まいの地域

が分かる形で実施されています。全体の割合だけでなく、「どの世代・どの地域で実感が低いのか」といった傾向まで分析すれば、取組や発信をどこに向けるべきかが具体になります。属性が分かるデータだからこそできる分析として、活用を検討していただけたらと思います。

- ・パブリックコメントや様々なアンケートにより、市が、市民からの色々な声を吸い取る努力をされていると改めて感じました。先日の審議会でも出た意見ですが、その声を年代別に分けることに加え、その評価の理由も聞いて、より詳細なデータを検証されてはどうか。
- ・厚木市は、都会の便利さを持ちながら豊かな自然環境に恵まれた観光地であり、企業も多く財政が安定し、子育て世帯や高齢者等市民の生活の質の向上を図る余裕もあります。鮎祭りを筆頭に音楽・大道芸などのイベントも多くスポーツにも力を入れていて、魅力が幅広く様々な可能性を感じる反面、どれも広く取り入れると、市のイメージがぼやけてしまう印象もあり、それが故に魅力の発信などの数値が伸び悩んでいるように思います。どれも大事にしたいし、できそうなのは贅沢な悩みなのかもしれませんが、方向を定めることにより大きい良い変化を感じられそうな伸びしろも魅力で、今後の方向性に期待を感じます。その上で、通勤や観光でもまず入り口となる「駅」が、まだまだその魅力を発信できていると認識される形にはなっていないと思うので、「厚木に来た」「厚木に帰ってきた」「厚木が楽しい」と感じられるような、魅力的な駅（・駅近辺）作りも重要かと思います。
- ・いわゆる昔ながらの“観光地”は、駅についたらまずお土産やさんがずらりと並び、見るだけでもその地域の特色を知る・感じる楽しさがあります。厚木は、アミュー地下1階の「あつまるショップ」にあるようなお土産やグッズを駅の観光案内所で販売すれば、駅利用者が地元の観光に目を向ける機会になるのではないのでしょうか。また、市の取り組みで変わるものではないのかもしれませんが、タクシーも5人以上が乗れる種類が走っていてくれるとありがたいです。市内には4人乗りしかなさそうで、子供が3人以上いる場合、大きくなると家族で乗れなくなってしまうので、一意見としてお願いします。

○基本目標ごとの評価について

（1）基本目標1 転入促進

- ・県央やまなみ協議会の広域連携の取組に期待したい。特に5市町村をめぐる広域観光の視点が重要と考える。
- ・せっかくの市内の温泉が市民にあまり利用されていないように思う。観光客へのPR

だけでなく、地元の温泉としてもっと市民が親しめる取組が必要なのではないか。

- ・保育士、幼稚園教諭、看護職等の奨励助成事業の達成率が 57.9%と突出して低い点が課題。20 代、30 代の転入者確保に向け、助成制度の要件緩和や助成額の増額などインセンティブの見直し等を検討すべきではないか。
- ・『1 関係人口を創出し、魅力を全国に発信する③あつぎの魅力の発信力強化』で、本市の魅力が市内外に発信されていると思う市民の割合が伸び悩んでいるように感じる。市などが製作する様々な紹介コンテンツのクオリティは高く、世の中に伝わっていないのは、とてももったいない気がする。伝えたい人に響かせるための媒体の選択など発信戦略の検証が必要ではないか。併せて、市民が発信者になって厚木の魅力を伝えてもらえるような気運の醸成がもっと必要なのではないか。市民が厚木に住んでいることにプライドを持てるようになれば、自発的に厚木の良さを世の中に発信していくように思う。
- ・『2 機能的でにぎわいのあるまちづくりを進める②商業の活性化』の、子育てパスポート AYUCO カード取得者数が順調に伸びていることから、市民に直接的にメリットのある施策はバラマキととらえられがちだが、この施策は次世代を担う若い人にターゲットを絞り、市民の評価も得られており、とても意味のある施策として評価できる。子育てなら厚木というイメージの醸成にも寄与していると考えられるので今後の進化も期待したい。
- ・厚木市にゆかりのある人、厚木市が故郷である、厚木市に関心をもった人を呼び寄せることができるように魅力のある支援内容を検討しながら発信していくことで、より関心も得られやすく、定住促進につながると思います。
- ・基本目標 1「転入促進」について。(意見) 先日の委員会では、約 8 年前の転入の理由として、市の子育てへの取り組みや助成などを考慮した旨をお伝えしましたが、4 年前の住居の購入にあたっては、ハザードマップ等を確認し防災の観点を重視しました。「買いたい」と思うには防災の取り組みは非常に重要だと思います。
- ・ただ、習い事等の出先に集中するのは駅付近がどなたも多いかと思いますので、例えばその地区で災害に合った場合はこのような行動を取るなどの予想もしておくことも必要ですが、いまいちハザードマップだけではイメージが湧かず不安もありますので、一つ一つの災害に対して、準備や行動にできるだけ不安なくイメージができるような資料を今後も作って頂けるとありがたいです。
- ・「都市間連携の強化」での海外友好都市等の取組は国際情勢や友好都市の都合等によ

る件数の影響が大きい。「主な取組」の項目の再検討をすべきと思う。

(2) 基本目標2 雇用創出

- ・KPI 達成率が 74.4%とやや遅れ、となった背景として企業誘致による雇用創出数が達成率 10%と著しく低い点が挙げられる。県の産業誘致、インフラ整備施策と緊密に連携し、企業誘致を加速していただきたい。
- ・様々な施策の実施しているなかで、設定した KPI の達成率により雇用創出に向けた取り組み全体が厳しめの評価となっている印象がある。評価から少しそれるが、大人数の雇用を生み出す企業誘致に一層力を入れ、そこで働く人たちの厚木市定住を促進できるような施策(住宅取得補助など)とセットで実施していくことで、効果の向上が期待できるのではないか。
- ・創業支援や中小企業支援は、地域経済の活性化に必要な支援であり、産業拠点を整備することで雇用の拡大にもつながると思います。
- ・奨学金返済助成は市内の学校の就職支援にとともに、退職防止となるため、今後も取組を推進すべき。

(3) 基本目標3 合計特殊出生率の上昇

- ・保育所施設等入所率の達成率が 100%なのは高く評価できる。「保育園に入れる街」としてもっと PR してはいかがか。
- ・KPI は 96.4%と順調な一方で、最終目標である出生数が 69.8%と毎年低下しているのは根深い問題である。子育て世帯の経済的負担軽減や若者の婚姻支援など、実効性ある基盤施策を充実させていただきたい。県の子育て支援事業との連携も一層進めていただきたい。
- ・合計特殊出生率の低下を食い止めることは、一つの自治体だけで行っていくには限界があるが、諦めずに取り組んでいただきたい。子供を産みたいと思う人をサポートする現在取り組んでいる施策を粘り強く進めていくことが大事だと思う。社会に子供を産んでも大丈夫というメッセージやムードを作っていくことを、国や県、周辺自治体と一緒に、さらに市民を巻き込んで知恵を出して欲しい。
- ・生活様式や働き方の考えが変わってきている多様化社会において、安心して子どもを育てることができる環境（ハード面、ソフト面）を推進していくことは、重要で

あり、より一層推進していくべきだと思います。

(4) 基本目標4 転出抑制

- ・ 刑法犯認知件数に課題を感じている。一口に防犯といっても難しい。厚木で仕事をするようになり、本厚木駅前の繁華街の昼と夜の顔があまりに違うことに驚いた。引き続き、ごみのない清潔な街、街路灯が整備された明るい街、安全・安心な街づくりに取り組むしかないのではないか。
- ・ 転入者数、特に 20・30 歳代では順調に推移しており、各施策の効果が表れているのではないか。
- ・ 特定検診の受診率の水準が低いことが気になる。
- ・ 文化芸術事業の参加者数の達成者について、主体的に出展、出演したいという人を増やしていくことが必要で、その動機となるような魅力的な発表の場の作り方も大事ではないか。長年続けていくと運営方法や会場の設定などはどうしてもマンネリ化は避けられないと思う。高校野球の甲子園のように、この会場で演奏したい、この場所に作品が飾られたいと思ってもらえるような特別感のある場の提供も一つのきっかけになるのではないか。文化会館で演奏できる機会を増やすことや、将来的には新しくできる市役所やアリーナ施設の活用など、参加者の意欲をより高めるような演出をしていくことが参加者数を増やすことに繋がっていくように思う。
- ・ 多様化社会の中で年齢や性別、国籍、障がいの有無などにかかわらず、活躍ができる機会を作ることは、大切な取り組みだと思います。
- ・ 希薄化する地域社会において、地域で不足している社会資源や地域の課題をつながり（ネットワーク）のちからで解決できるように顔の見える関係性の構築が求められています。
- ・ 「市民の健康増進」での健康診査の受診率での、特に働いていない女性の受診率を高めるための取組の推進を検討してほしい。